

総務省 平成28年度 ICTまち・ひと・しごと創生推進事業

くずまき見守り&スマートライフ

プラットフォーム推進事業

【事業概要】

平成29年5月31日

葛巻町・岩手ケーブルテレビジョン株式会社

目次

- 1 事業概要
- 2 事業内容
- 3 利用者アンケート結果
- 4 今後に向けて

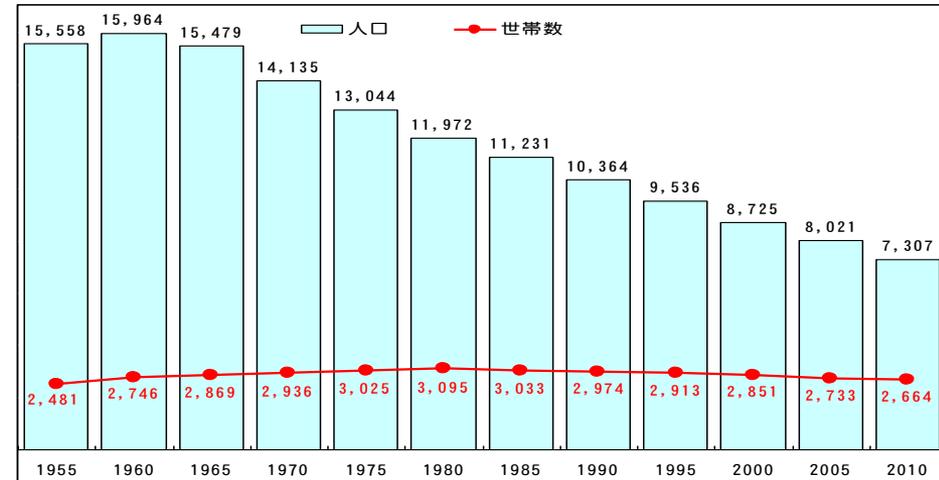
1 事業概要



1-1 岩手県葛巻町の概要

【H27国勢調査】

人口 約6,340人 **世帯数 約2,461世帯**
高齢化率 42.4%



- ◎ 人口は、昭和36年のピーク時と比較し半分以下にまで落ち込み、**高齢化率は40%超**
- ◎ 町役場を中心に放射状に集落が点在。
役場から一番遠いのは吉ヶ沢地域は役場から車で約45分。
- ◎ また、高等学校1校、中学校3校、小学校5校、集落が分散しているため学校数が多い。
- ◎ 主な基幹産業は、東北一の酪農業と町の約86%を占める森林を活かした林業（ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち）
- ◎ また、風力、太陽光、バイオマスなどのクリーンエネルギーを推進するまち
- ◎ 平成20年度から地域情報化基盤整備に取り組み、ICTの活用も推進
 - ・ **ケーブルテレビ普及率100%**（町全域がテレビ難視聴エリア）
 - ・ **携帯電話世帯カバー率99%**（NTTドコモ）
 - ・ **各種情報通信基盤**が整っており、観光施設や体育施設への**フリーWi-fi整備済**。（今後、その他公共施設への展開を計画）



1-2 これまでの地域情報化の取り組み

※別添資料をご覧ください。

情報通信基盤を活用した 住民が「安心・安全に暮らせる」まちづくり

北緯40度ミルクとワインと クリーンエネルギーのまち **くずまき**

これまでの歴史を整理し、それぞれのシステムの特徴を適宜又は統合的な情報基盤を構築することで、住民が安心・安全に暮らせるまちを目指しています。平常時から利用できるシステムや災害時の利用稼働を想定したシステム。さらには、省電節水や様々な施設を備えたい基礎的機能を備えています。特に、情報通信サービスの利便性である「いつでも、どこでも、だれでも」利用できるように構築し、都市部との格差を縮小するうえで重要視し取り組んでいます。

いつでも 24

※業務時間外システム（L1/L2/L3）は24時間稼働し、災害時の緊急対応により災害時の稼働も確保する体制の構築が実現されています。

どこでも

ケーブルテレビ、携帯電話、固定電話などあらゆる端末を通じて利用できるように構築し、災害時の緊急対応により災害時の稼働も確保する体制の構築が実現されています。

だれでも

エリアメール、携帯メール、エリアワンセグ放送や防災無線など様々な端末を通じて利用できるように構築し、災害時の緊急対応により災害時の稼働も確保する体制の構築が実現されています。

防災情報伝達制御システム

情報入力端末、災害監視カメラ、J-ALERTシステム、情報入力端末（情報伝達専用端末）、災害監視カメラ、IPインカム、移動放送システム（FM放送）、移動放送システム（FM放送）、携帯メール、エリアメール

屋内

FM音声告知放送

CATV

ネットワーク構築

公共施設その周辺

屋外告知放送

CATV

ネットワーク構築

その他

エリアメール

携帯メール

災害一斉警告メール

【平成18年】

- 10月 / 被害総額約40億円の未曾有の豪雨災害を踏まえ、有事の際の情報通信基盤の必要性を痛感
- 5月～ / 総務省モデル事業「条件不利地域におけるブロードバンド化促進のための調査研究事業」を実施
- 【平成20年】
- 9月～ / 地域イントラネット基盤整備工事（国庫補助事業） ※光ファイバ網：約100km、
- 屋外告知端末：32基、公共施設等接続：47施設 など
- 【平成21年】
- 6月～ / 地域イントラネット基盤の拡充整備工事（町単独事業） ※光ファイバ網：約20km、屋外告知端末：15基、公共施設等接続：21施設 など
- 【平成22年】
- 6月～ / 地域デジタル対策、高速ブロードバンド環境構築のため地域情報通信基盤整備事業を実施（国庫補助事業） ※光ファイバ網：約120km、世帯等引込線：約207km（光ファイバ網の総延長：約450km）、サブセンタ設備：4施設、放送用送受信設備など
- 10月～ / エリアメール導入（ドコモ）

【平成23年】

- 1月末 / 全世界、全事業所の地上デジタル放送移行完了
- 2月～ / 高速ブロードバンドサービス加入申し込み開始
- 4月～ / ケーブルテレビ「くずまきテレビ」開局
- ※東日本大震災発生に伴い情報通信基盤の無停電化、情報伝達手段の多重化を検討
- 【平成24年】
- 2月～ / エリアメール導入（au、ソフトバンク）
- 6月～ / 災害に強い地域情報通信基盤施設の拡充整備工事（国庫補助事業・国3次補正対応） ※防災情報連携システム、エリアワンセグ放送設備、伝送路重層化、非常用自家発電装置（セント設備） など
- 11月～ / 災害に強い地域情報通信基盤の拡充整備工事（町単独事業） ※屋外告知端末増設、FM音声告知端末、スタジオ設備 など
- 【平成25年】
- 3月～ / エリアワンセグ放送開始（くずまきテレビ自主放送チャンネル配信）
- 3月～ / 携帯電話エリア拡大事業（町単独事業）により、世帯カバー率が約99%に
- 5月～ / 防災情報連携システムの本格運用開始、災害時の迅速で効率的な配信が可能に
- 6月～ / FM音声告知端末400台を順次設置（町単独事業）

6月～ / FM音声告知端末1,200台（累計1,600台）を追加購入・順次設置（町単独事業）

【平成27年】

- 5月～ / FM音声告知端末600台（累計2,200台）を追加購入・順次設置（町単独事業）
- 10月～ / 町内の体育施設、主要観光施設に8か所フリーWi-Fiを設置（先行型交付金） ※町社会体育館、町総合運動公園、葛巻町役場、道の駅くずまき高原、くずまき交流館プラトール、ふれあい宿泊グリーンテージ、森の館ウッディ、森のこだま館
- 【平成28年】
- 4月～ / 携帯電話エリア拡大事業（国庫補助事業）により、1地区解消
- 5月～ / ICTまち・ひと・しごと創生推進事業費補助金事業申請（CATVとマイナポータルカードを活用した葛巻町見守り＆スマートライフプラットフォーム）
- ⇒ 6月29日に採択

※平成20年度～平成28年度末までの総事業費見込み総額（イニシャルのみ）

⇒ 約18億円【うち、町単独負担分：約4億円（@約2.3億円：12.8%）】

人口減少・進む少子高齢化

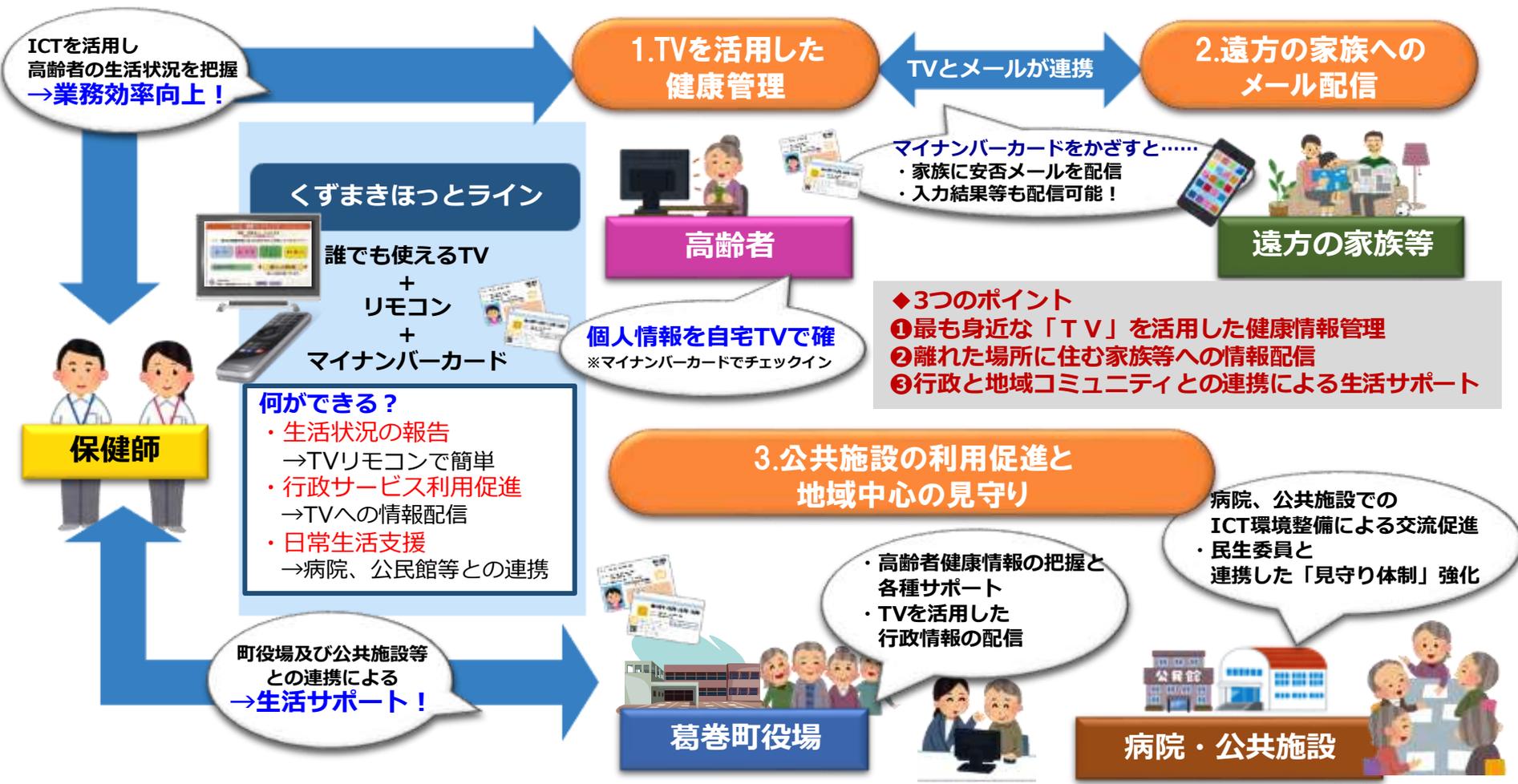
- ◎ 平成27年国勢調査の人口6,340人に対する高齢化率は42.4%に上昇
- ◎ 葛巻町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、総合戦略の人口推計では平成42年に人口4,803人に対して高齢化率は47.8%
- ◎ 独居高齢者の世帯も増加しており、核家族化、生活様式の多様化など社会情勢の変化により、地域の相互扶助機能の希薄化が危惧されている。

点在する世帯・高まる保健業務の負荷

- ◎ 葛巻町の面積は約435 k m²で、大阪市24区の面積（223 k m²）の約2倍
- ◎ 人口に対する保健師の配置数は6名（県内では高い配置状況）
- ◎ 保健師の年齢層が若く、出産・子育て中であるため、臨時保健師による補充（保健師の就労・子育て環境の充実）
- ◎ 役場を中心に放射状に集落が点在し、車での移動が最大40分程度かかる
- ◎ 住民ニーズの多様化・複雑化し、行政職員中心の高齢者サポートに課題

1-4 くずまき見守り&スマートライフプラットホーム支援事業

事業概要
 遠方の家族・地域社会による高齢者見守り支援を実現することを目的に、CATVの「共通的個人公的認証」とSTB（セットトップボックス）を活用した個人番号カード認証機能の横展開と、テレビを活用した健康管理・行政情報配信・行動履歴管理を通じた、高齢者及び高齢者予備軍の見守り、寄り添い、地域での暮らしサポートを行う。



1-5 当事者ニーズとサービス対象者

① 見守りに関する関連当事者のニーズとは？

見守り支援者：（家族）

遠方の親（高齢者）が心配だが、費用もかかるし頻繁には帰れない。親戚は近くには居るが高齢世帯であり気軽には頼めない。見守りに必要な**各種データが集約・共有**ができていない。遠くに住んでいる為、どのような行政サービスがあるか、近隣の支援情報（近所、民生委員等）がわからない。

見守り対象者：（本人）

高齢者自身はまだ元気なので、子供達の世話になりたいと思っていない。また、社会参加機会の情報等が欲しい等、個人の状況に合わせた支援を希望したい。高齢者本人（見守りが必要な住民）はテレビは使えても、スマホやタブレット等の**ICT機器は使いこなせない**。

見守り支援者：（行政）

行政側も見守り必要者への正確な**状況把握が困難**であり、高齢者が本当にして欲しい見守りサービス（買い物、外出、通院、緊急時）に課題を感じている。高齢者には様々な状況があり、ニーズにあった「見守りサービス」の必要性を感じている。

② サービス対象者（元気な高齢者を想定、見守りが必要な高齢者参加は要検討）

	高齢者予備軍 (55歳～)	元気な高齢者 (65～75歳)	見守り必要な高齢者 (75～85歳)	在宅看護が必要な高齢者
対象者 例 示	アクティブシニア層 元気で長生きしたいと願う	健康の自己管理に意欲 生活習慣病などを持つ	要介護者（身体・認知機能の低下） 通院可能/独居/同居のパターン有	寝たきりに近い がん、老衰など
社 会 目 標	地域や社会参加、相互扶助 地域の担い手	健康寿命の延伸 生きがいの創出	低下した機能の維持・回復 独居への対応	終末期の質の向上
本実証 テーマ	高齢者の見守り側 生活習慣病予防と自己管理 運動（体動かす）きっかけ 趣味	予防（食事、運動など） 早期発見（生活、認知症等） 自己健康管理 社会参加機会の維持	リハビリ（機能維持・回復） 身体認知機能の補助 社会的見守り（通院、投薬） 介護機能の補助	在宅医療・介護情報連携 健康・生活情報連携 遠隔診断・治療 在宅ホスピス

1-6 実施体制と達成目標 (KPI)

① 実施体制

葛巻町

- プロジェクト全体の意思決定・企画・進行管理
- 総合戦略や健康福祉課との調整
- 町の地域課題解決に向けた政策立案～実行

岩手ケーブルテレビジョン

- 全体管理
- 米子市および南砺市の事例の調査研究、ノウハウの吸収と利活用
- 住民向け説明会の開催、実際の機器設置、利用方法説明の実施
- STBやカードリーダー、インターネット回線の設置設定

岩手県立大学

- 「くずまき見守り&スマートライフプラットフォーム」の運用・利活用に関する提言・助言

日本デジタル配信

- 米子市事例の個人認証基盤との連携機能の開発
- 南砺市事例のクラウドシステムとの連携機能の開発
- ケーブルSTVB上で利用可能な基本機能の開発

② 達成目標 (KPI)

本事業参加者数

(マイナンバーカード受給者数)

平成27年度：0枚

→ **平成28年度：50枚**

保健師高齢者訪問・相談等効率化の実現 (1日あたりの平均相談者数、面談者数)

平成26年度：3.3人 (1週間延べ16.5人)

→ **平成28年度：4.95人**

(1週間延べ24.8人)

(※本システムによる状況確認等も含む)

週に1回以上の「見守り」を受ける 独居高齢者の割合の向上

平成26年度：22%

→ **平成28年度：30%**

2 事業内容



2-1 くずまきほっとライン事業のポイント

ICTで地域の「見守り」や「寄り添い」の回復・普及・定着を広く目指す

1 日常的に利用する「テレビ」を中心としたICTの利活用

- ◎ 高齢者が、普段身近に利用するTVを基本としたサービス
- ◎ 町内2,461世帯中ケーブルTV加入率100%
- ◎ 自主放送チャンネル（くずまきテレビ）とデータ放送を運用



2 システム運用に欠かせない高速通信回線網を確保済み

- ◎ 高齢者のみ世帯には、光回線（有線）によるネットワーク環境が無いのがほとんど
- ◎ 安価に利用可能なモバイル回線を併用することで回線網を確保
- ◎ モバイル回線世帯カバー率（NTTドコモ）は、99%超



3 保健師が訪問しなくても高齢世帯の状況を把握

- ◎ 高齢者世帯への健康管理・行政情報配信・行動履歴管理を実施
- ◎ 保健師が保健センターにいながら高齢者個々の健康状況を把握



4 地域での「寄り添い」機能を回復

- ◎ 見守り支援者として民生委員や高齢者生活安全支援員が参加予定
- ◎ 町外に住む高齢者の家族等もリアルタイムで健康状況を把握

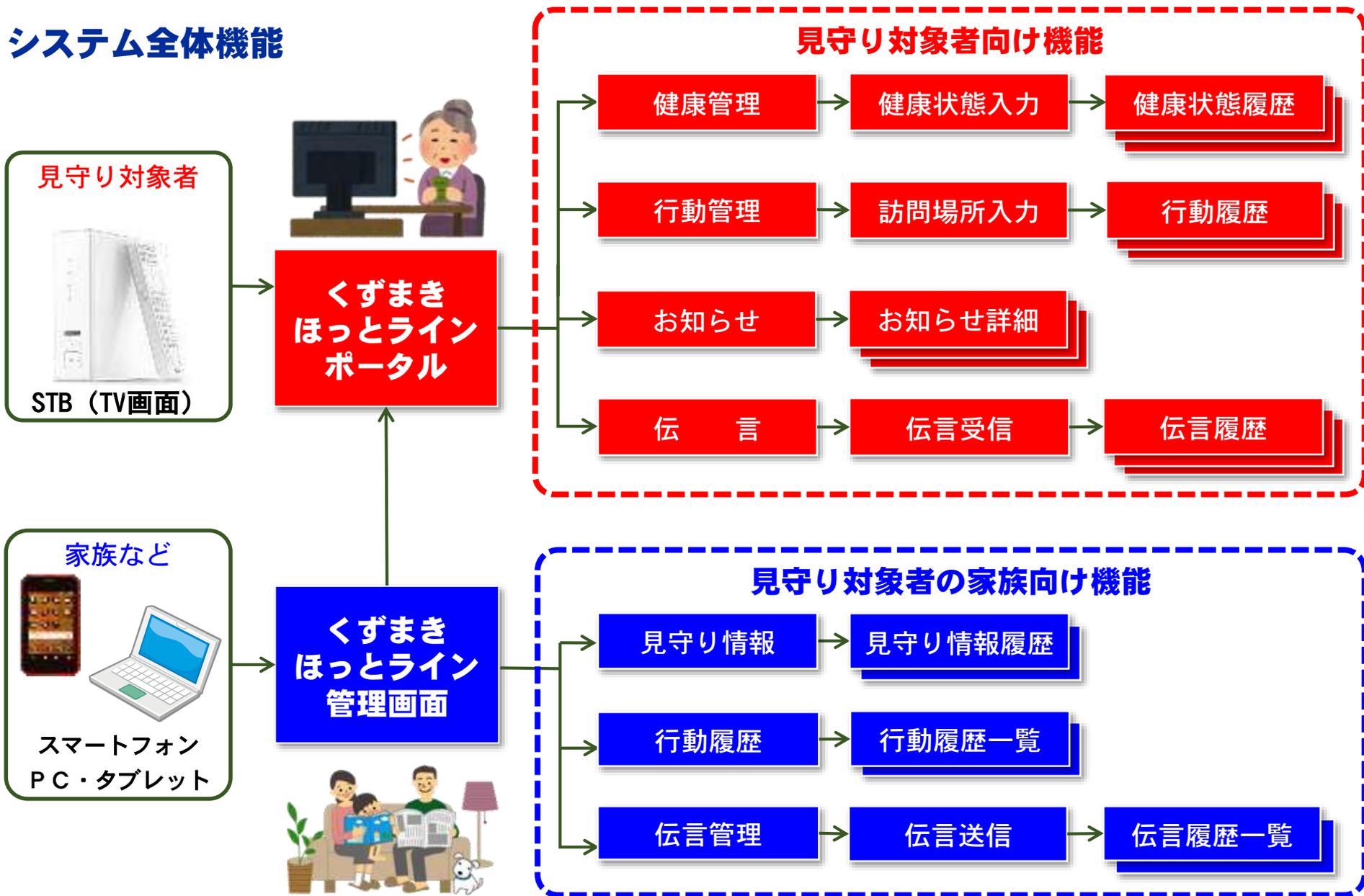


5 「元気な高齢者」の意識向上

- ◎ 将来的に「見守り」が必要と見込まれる65歳以上の単身世帯への参加呼びかけ

2-2 くずまきほっとライン全体機能概要

システム全体機能



2-3 くずまきほっとラインの機能

見守り対象者（高齢者）	見守り支援者（家族・行政など）
<p>【ポイント】 日々の活動を「見守り」+支援者との「寄り添い」をもっとも身近なTVで支援！</p>	<p>【ポイント】 遠方の家族や地域ぐるみでの「寄り添い」を支援！</p>
<p>◎テレビを起動して健康状態登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ICカードリーダーにマイナンバーカードをかざすとテレビが起動+個人認証が完了 ◎ 画面の表示に従って、自分の健康状態にあう色ボタンを押す。 ◎ 操作はテレビのリモコンで行う（キーボード+マウス不要） ◎ 役場や遠方家族への情報配信に特別な操作は不要 	<p>◎毎日の健康状態が登録メールアドレスに配信</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 家族などにメールでお知らせが届く。 ◎ 見守り対象者の健康状態の履歴を確認することができる。 ◎ 2日以上システム操作が無い場合にアラートメールが届く。
<p>◎行動履歴登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 外出先のカードリーダーにマイナンバーカードをかざすと行動履歴が登録 ◎ 自宅のテレビで過去の行動履歴を確認できる。 	<p>◎行動履歴確認〈どこ行ったっけ？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 見守り対象者の行動履歴をパソコンやスマートフォンで確認することができる。
<p>◎町からのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 役場からの、暮らしに役立つお知らせをテレビで読むことができる。 	<p>◎町からのお知らせ（行政のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 行政から見守り対象者に、各種手続きやイベント情報など、行政情報の配信が可能
<p>◎伝言機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 離れて暮らすご家族や行政から届く伝言を読むことができる。 ◎ 写真がついた伝言も受け取ることができる。 ◎ 定型文での返信も可能 	<p>◎伝言板</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 家族や行政から見守り対象者へ、パソコンやスマートフォンで伝言（メッセージ+画像）を送ることができる。 ◎ 見守り対象者はテレビで伝言を読むことができる。

2-4 くずまきほっとラインの利用状況等

【モニター（見守り対象者）操作説明】

- 町内の65歳以上の一人暮らし高齢者52名にモニター参加を依頼
- 端末の設置は平成29年1月中旬より実施
- 町内6会場で操作説明会を開催
- さらに、モニター宅に町役場職員または岩手ケーブルテレビジョンスタッフが訪問し、利用方法の説明/解説を行う



町内6会場で操作説明会の様子

【行動履歴用端末の設置】

- 高齢者が頻繁に利用する町内5箇所に「くずまきほっとライン」端末を設置。（イントラネット回線により接続）
 - いずれの施設も玄関付近の目立つ場所に端末を配置。ポスター等での広報活動を行っている。
- ※将来的には、高齢者が利用する公共施設・福祉施設や店舗などに設置を拡大予定。



モニター宅での操作説明の様子



町立国保葛巻病院
(通院)



町保健センター
(各種手続・日帰り入浴)



グリーンテージ
(日帰り入浴)



まちの駅
(バスの待合所)



社会体育館
(各種バントや高齢者を対象としたスポーツ教室など)

【町担当者（見守り支援者）操作説明】

- 見守り支援者となる町担当職員（健康福祉課：行政職、保健師）への操作説明会を開催
- ※将来的には、民生委員、町社会福祉協議会、老人福祉施設の職員などとも連携し、見守り支援者を拡大予定



担当職員向けの操作説明会の様子

2-5 達成目標（KPI）に対しての効果

本事業参加者数（マイナンバーカード受給者数）

平成27年度：0枚

→ **【目標】平成28年度：50枚 ⇒ 【結果】平成28年度：52枚**

保健師高齢者訪問・相談等効率化の実現（1日あたりの平均相談者数、面談者数）

平成26年度：3.3人（1週間延べ16.5人）

→ **【目標】平成28年度：4.95人 ⇒ 【結果】平成28年度：5.0人**
（1週間の延べ25.0人）

（※本システムによる状況確認等も含む）

週に1回以上の「見守り」を受ける独居高齢者の割合の向上

平成26年度：22%

→ **【目標】平成28年度：30% ⇒ 【結果】平成28年度：30%**

【モニター（見守り対象者）の声：抜粋】

- カードを置くだけなら自分でもできそう
- 色のついたボタンを今まで使ったことがなかった
- テレビで押したことを、誰かが見ているというのは不思議な雰囲気だ
- 普段使っているテレビでこんなことができるようになるなんて、思ってもいなかった

【町担当者（見守り支援者）操作説明】

- 操作が簡単なので高齢者でも大丈夫だろう
- 町のおしらせや伝言機能をしっかりみてもらう習慣をつけてもらう必要がある

3 利用者アンケート結果

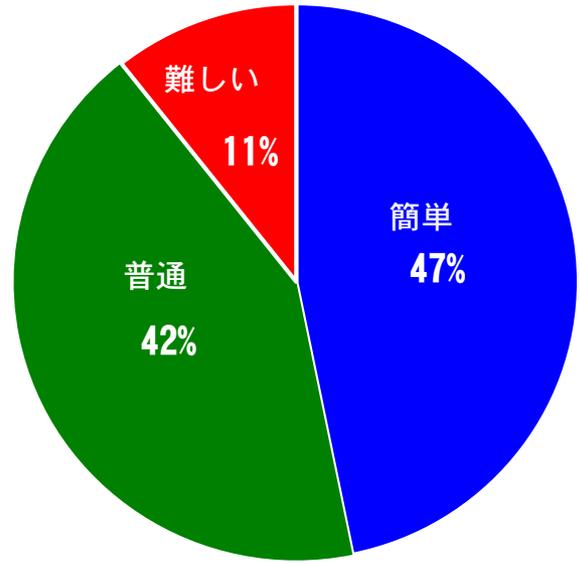


3-1 見守り対象者のアンケート結果概要①

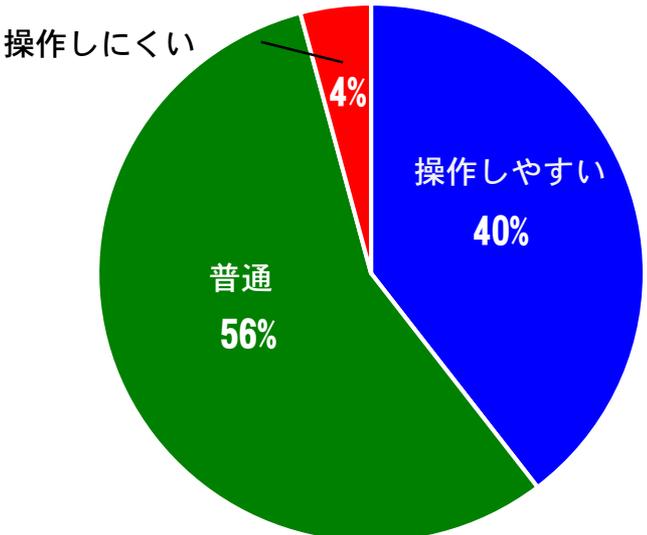
階層年齢・男女別の内訳 (計52名)

男性：65～69歳	13名		
70～74歳	3名		
75～79歳	2名		
80～84歳	2名		
85～89歳	0名	計	20名
女性：65～69歳	10名		
70～74歳	14名		
75～79歳	6名		
80～84歳	1名		
85～89歳	1名	計	32名

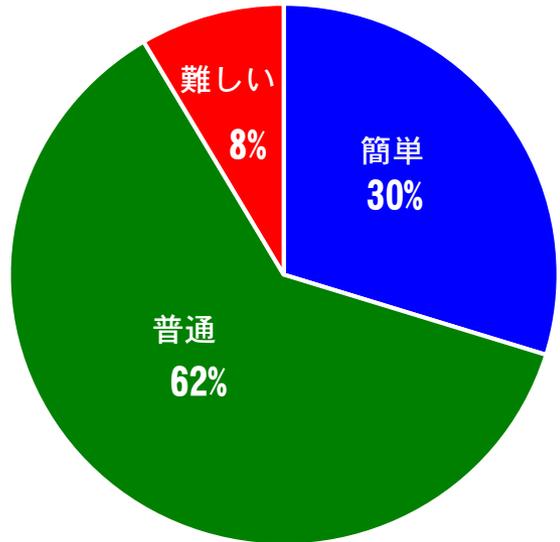
問 サービスを利用するための機器の起動しやすさはいかがでしたか。(〇は1つ)



問 サービスの画面操作のしやすさはいかがでしたか。(〇は1つ)



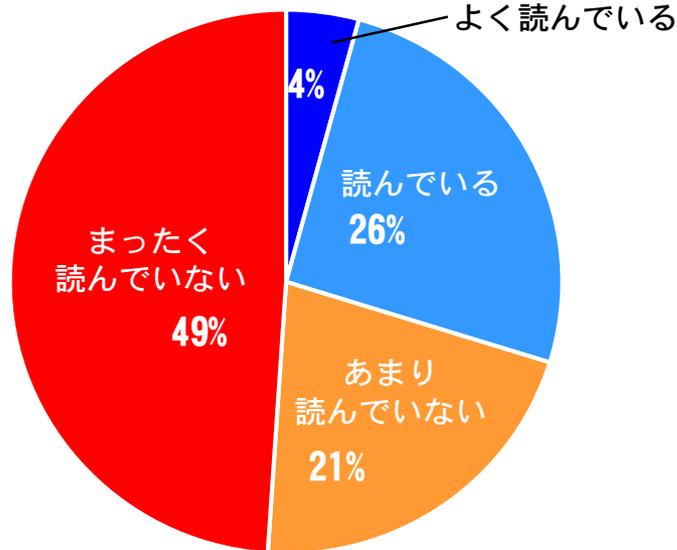
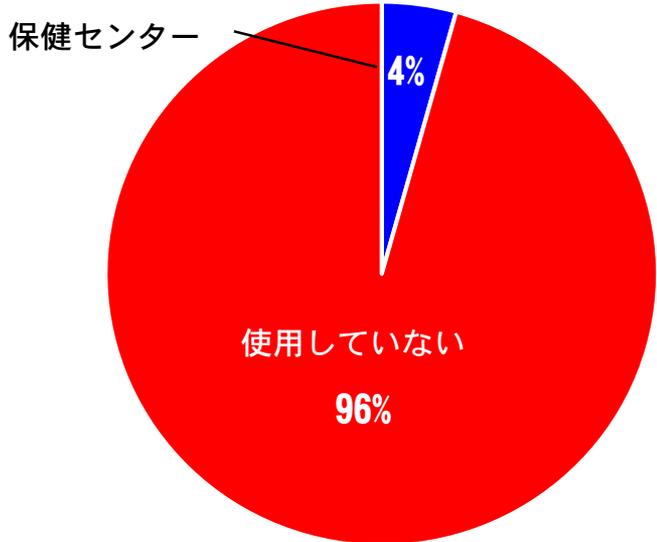
問 「くずまきほっとライン」の使いやすさはいかがでしたか。(〇は1つ)



3-1 見守り対象者のアンケート結果概要②

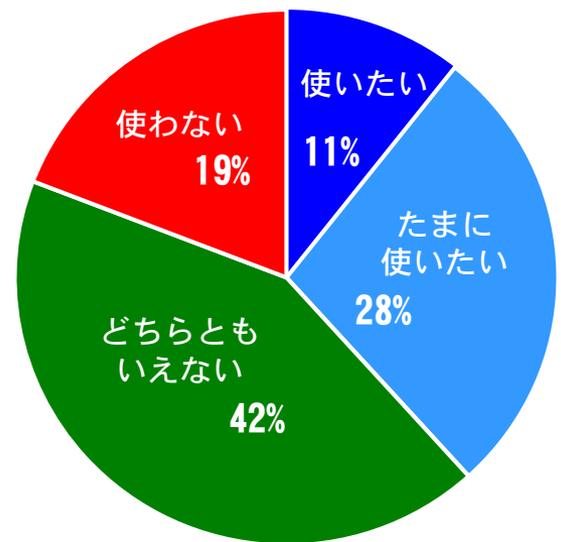
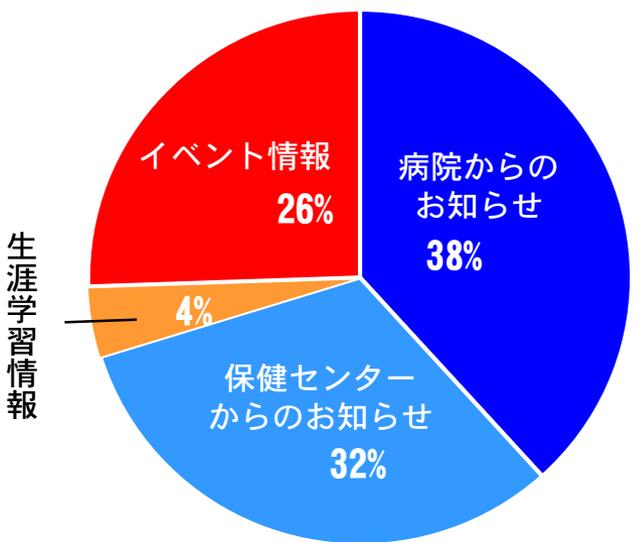
問 「どこ行ったっけ？（行動履歴）」をどこで使いましたか。（○は1つ）

問 「町からのお知らせ」を読んでいますか。（○は1つ）



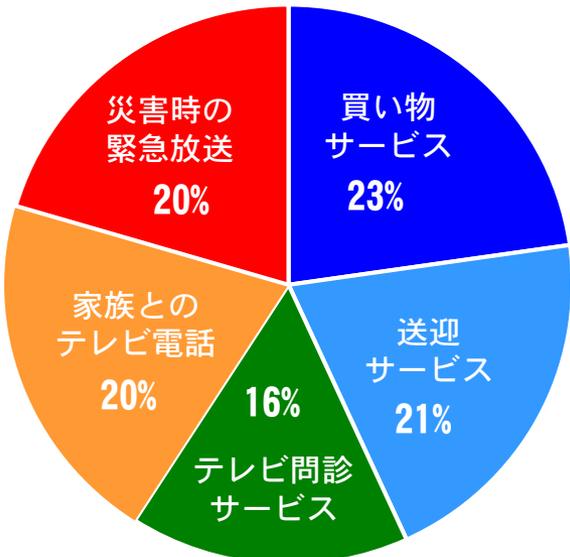
問 「町からのお知らせ」でどんな情報が知りたいですか。（○は1つ）

問 「伝言板」を使ってみての感想を教えてください。（○は1つ）

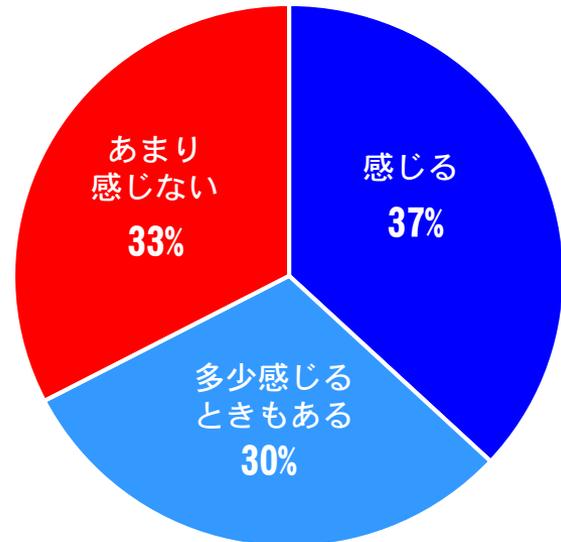


3-1 見守り対象者のアンケート結果概要③

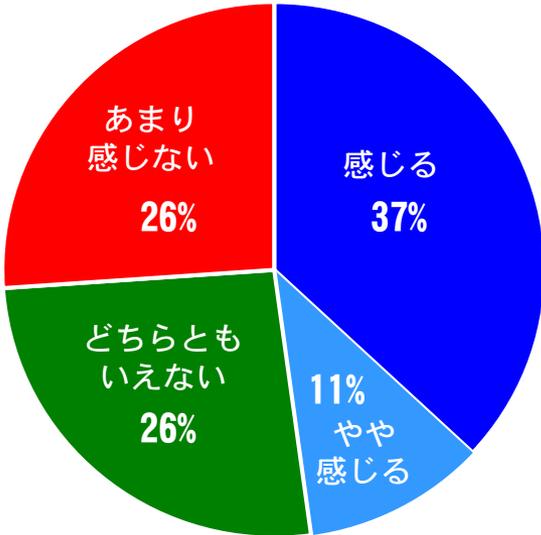
問 テレビでこんなサービスがあったら良いなと思われ
れますか。(〇は1つ)



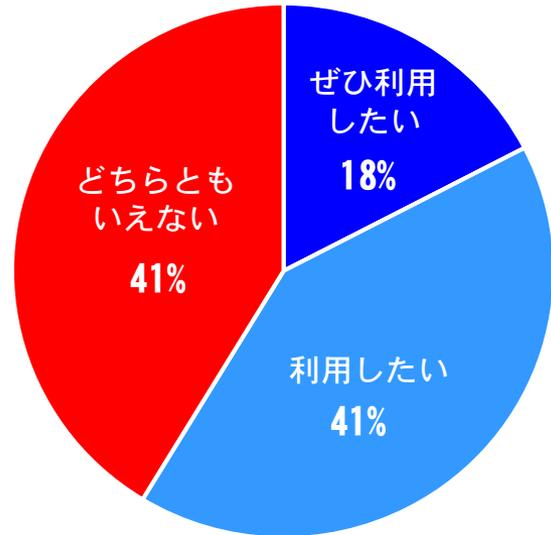
問 本サービス利用で、暮らしの安心感が高まると感
じましたか。(〇は1つ)



問 テレビを利用してサービスを受けられることを便
利だと感じますか。(〇は1つ)

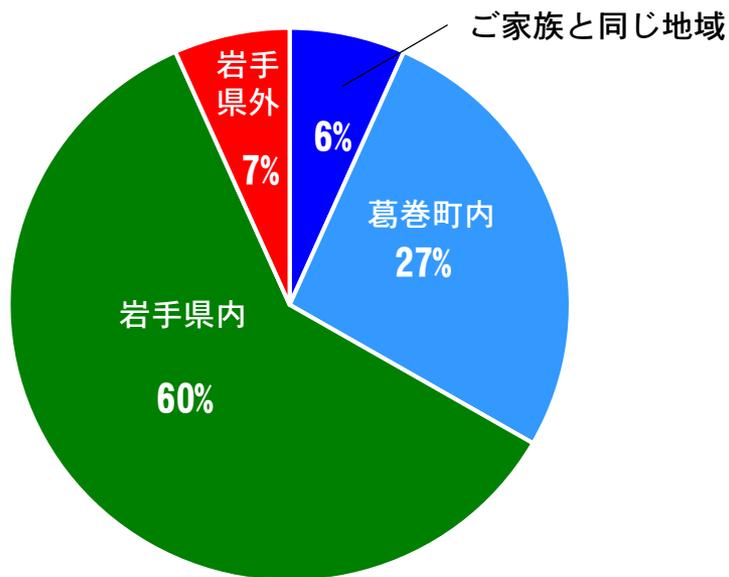


問 今後も「くずまきほっとライン」を利用したいと
思いますか。(〇は1つ)

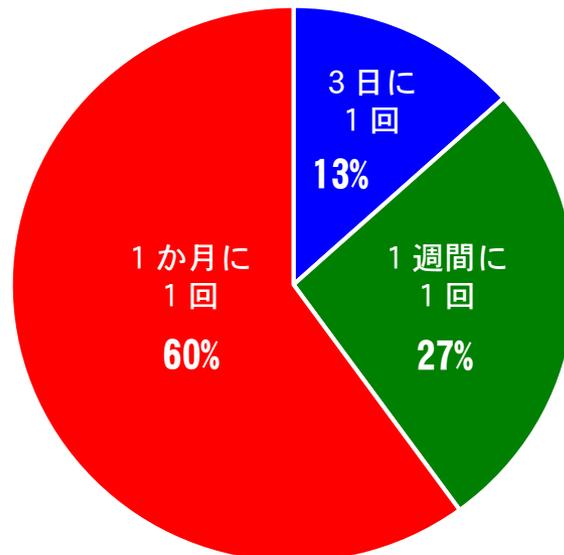


3-2 見守り対象者の家族向けアンケート結果概要①

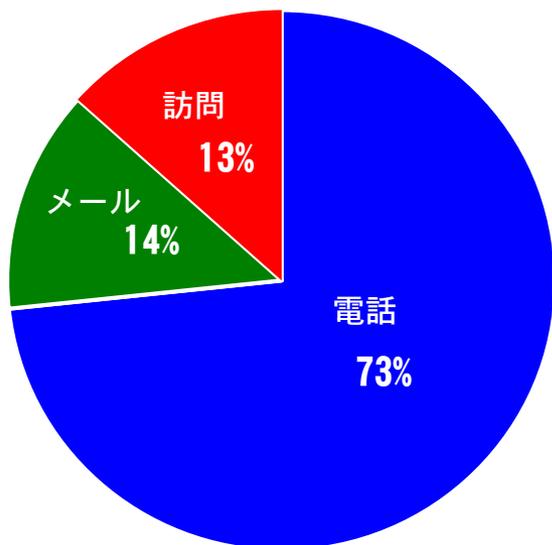
問 どちらにお住まいですか。(〇は1つ)



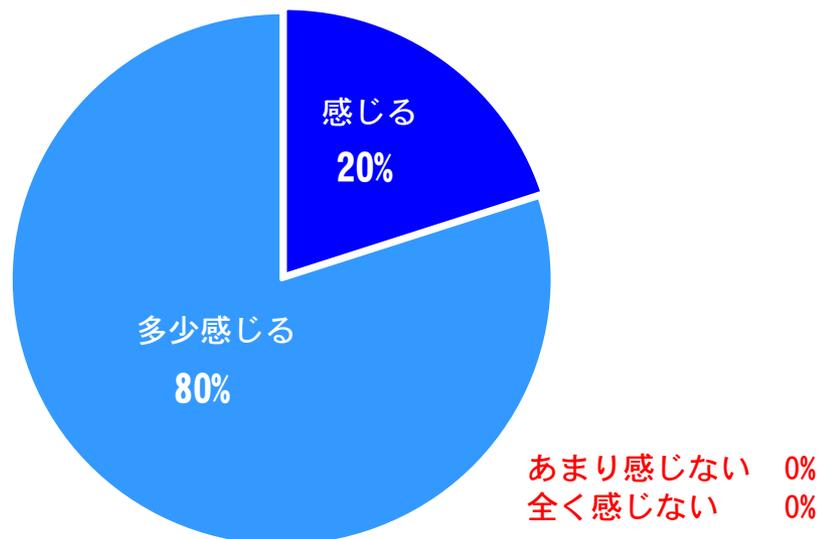
問 日頃、ご家族の状況確認をどのくらいの頻度で行いますか。(〇は1つ)



問 日頃、ご家族の状況確認に、どんな手段を使いますか。(〇は1つ)

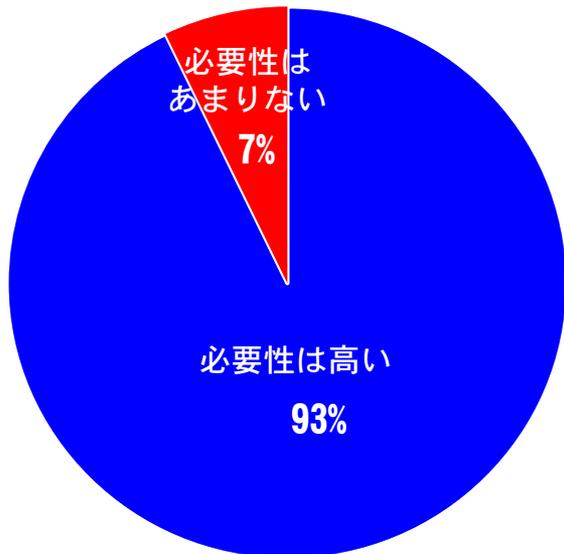


問 本サービス利用で、ご家族の見守りに関して安心感が高まると感じましたか。(〇は1つ)

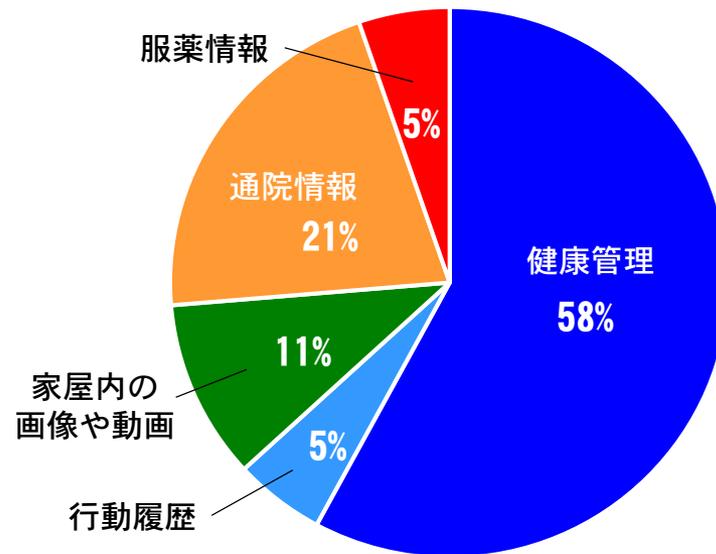


3-2 見守り対象者の家族向けアンケート結果概要②

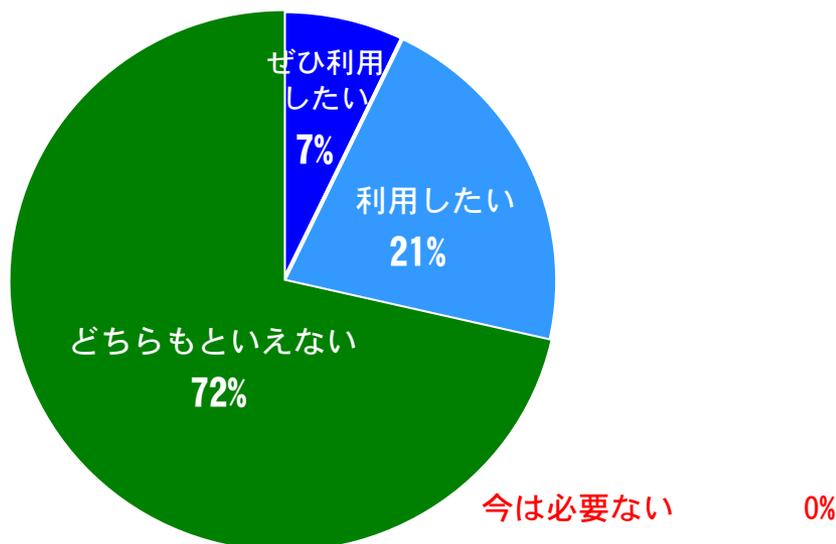
問 本サービスの必要性を感じましたか？



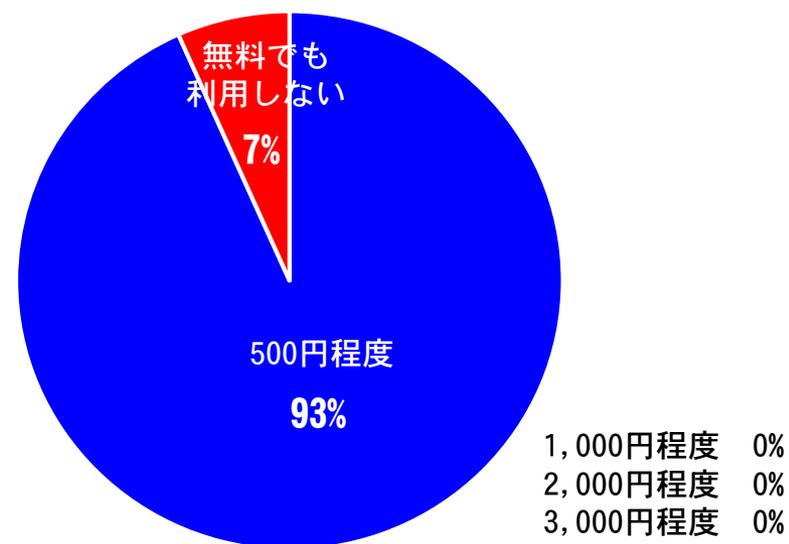
問 ご家族（見守り対象者）のどのような情報がほしいと思われますか。



問 今後も「くずまきほっとライン」を利用したいと思いますか。（○は1つ）



問 利用料金が月額どのくらいなら、今後も利用したいと思いますか。（○は1つ）



3-3 アンケート結果総括

【見守り対象者（利用高齢者）】

- モニター52名中40人が前期高齢者(65歳～74歳)ということもあり、システムの操作性はあまり問題とはならなかった。
- 背景として、CATV開局当時からデータ放送機能を導入しており、身近な情報（お悔やみなど）を配信していたことにより、テレビのリモコンの操作性に慣れていたと思われる。
- モニターを開始して1カ月ということもあり、まだ、利便性を実感できる状況までとはなっていないが、利用の継続により暮らしの安心感などが高まるものと思われる。
- 今回は、健康管理・行動履歴などのサービスが中心であったが、高齢者の暮らしの不便さに関するサービス（買い物・送迎・通院など）を拡充することで、利用者の拡大が見込まれる。

【見守り支援者（家族）】

- 人口減少、高齢化の背景もあり葛巻町の場合、高齢者の家族が町外に在住している率が高く、状況確認の頻度が低い。
- 毎日の健康状況がメールで配信されることで、家族の安心感が高まると思われ、サービスの必要性を実感している。
- 一方で、モニター対象者の8割が前期高齢者(65歳～74歳)であったこともあり、今後の利用希望は3割弱に止まっている。

【全体総括】

- これまでの一般的な見守りシステムは、世帯(面)での管理であったが、マイナンバーカードを利用することにより、個人(点)での見守りが可能となったことで、きめ細かな見守り支援が展開できるものと期待される。
- システムの利便性については、日頃使い慣れているテレビをベースとしていることで操作性については問題ないと思われるが、行政からのお知らせの頻度、高齢者の暮らしに即したサービスの拡充などにより、利便性を向上していかなければ利用者の増加につながらないと思われる。（商工会、タクシー事業者などとの連携）
- 利用が低調だった行動履歴は、チェックポイントを公共施設以外へ展開するとともに、ポイント+特典を付与することで、見守り支援のみならず高齢者の健康増進にもつながるとと思われる。
- また、サービスの利用にあたっては、月額500円程度を希望する者が9割以上であり、イニシャルコスト、ランニングコストなどの経費抑制が今後の課題となる。（特に、通信費の抑制）
- 家族との疎遠や身寄りのない高齢者などもおり、地域や関係機関、団体を含めた支援者の確保も重要である。
- 支援者はWEBサイトからのシステム利用であり、専用アプリの開発などで利便性を向上させることも必要と思われる。

4 今後に向けて



4 今後に向けて

① ランニングコスト

本システムの実用化に向けては、高齢者からの利用料収入を大きく見込むことができないため、イニシャルコスト（STVB、モバイルルーターの調達）、ランニングコスト（下表参照）が大きな課題であり、特にもランニングコストについて、様々な方策を検討しながら、削減を図っていく必要がある。（特にも通信料（ルーター利用料）のコスト削減 ⇒ 格安SIM、IPマルチキャストの導入などの検討も必要か。）
(H29.3月末現在)

費用項目	50台で運用の場合		100台で運用の場合		備考
	月額	年額	月額	年額	
1 クラウド利用料・保守料	300,000円	3,600,000円	300,000円	3,600,000円	
2 STVB保守料 (324円/台)	19,440円	233,280円	35,640円	427,680円	※10台分加算
3 BCAS利用料 (108円/台)	6,480円	77,760円	11,880円	142,560円	※10台分加算
4 ルーター利用料 (約2,950円/台)	147,582円	1,770,984円	295,164円	3,541,968円	※NTTドコモ
合計	473,502円	5,682,024円	642,684円	7,712,208円	
1世帯あたり	9,470円	113,640円	6,426円	77,112円	

② 運用体制

・ 休日対応や地域を含めた連携体制の確立

高齢者の「体調の変化」や「未登録状態」を確認した場合の初期稼働や休日対応について、「家族」「行政」「福祉施設」「民生委員」「地域」を含めた連携体制を構築していく必要がある。

③ サービスの拡充と各年代への横展開

・ 見守り以外の高齢者向けサービスの展開

高齢者の日常生活でサポートが必要と思われる「買い物支援」「交通対策(デマンドサービス)」などのサービス拡充や利用ポイント(特典付き)などの導入による利用者の拡大を…

・ 子育て世代向けサービスなどの横展開

マイナンバーカードを利用することで、個人を識別できることから対象者を絞り込んだサービスの横展開が可能であることから、町の最重要課題の人口減少対策の一つである「若い世代が暮らしやすいまちづくり」に寄与できる新たなサービス展開へ…